

# 中国圏広域地方計画に関する意見交換会 議事録

日時：平成 19 年 11 月 13 日（火） 11:00～12:00

場所：ホテルルポール麹町「3 F マーブル」

※敬称略

## 1. 開会

(竹歳国土交通審議官)

- ・国土交通審議官の竹歳でございます。冬柴大臣が今、参議院の国土交通委員会で 10 時から 12 時まで法案審議等ありますので、大臣の挨拶を預かっておりますので代読させていただきます。
- ・本日、中国 5 県の知事の皆さま、広島市、中国経済連合会の代表が参加のもと、意見交換会が開催されることを嬉しく思いますとともに、平素より国土交通行政の推進につきまして、深いご理解と多大なるご協力を賜っておりますことに対し、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。また、日頃から中国地方の振興、発展のためにご活躍されている関係団体の皆さまのご尽力に対し、深く敬意を表したいと思っております。
- ・ご案内の通り、国土計画はこれまで全総計画として国主導で計画策定を行って参りましたが、平成 17 年 7 月の国土総合開発法の改正により、全国計画と広域地方計画の二層の計画体系からなる国土形成計画に改められました。広域地方計画は国と都道府県等が連携・協力し、地域の様々な関係者のご参加を得て、地域の特色を生かして策定する計画であります。このような広域地方計画の策定に向けて、中国圏では県・政令市・地元経済界・国の地方支分部局等により組織される広域地方計画協議会の準備会合、いわゆるプレ協議会を昨年 11 月に立ち上げ、鋭意議論が進められていると承知しております。
- ・中国地方は人口 770 万人を有し、中つ国と呼ばれた交通の要衝としての地理的優位性をいかして、鉄鋼、石油化学、自動車、造船等が集積しており、オーストリアやデンマークなど欧州の中規模国レベルの経済規模の圏域です。また、大小様々な都市が適度な間隔で立地しており、都市と豊かな自然との共存が図りやすい圏域でもあります。その一方で、人口が全国よりも約 10 年早く減少局面に入っており、中山間地域における限界集落などへの目配りや中小都市圏での地域活性化、水害や地震等に対する安全・安心の確保などへの対応も求められております。
- ・圏域の強みをどういかしていくのか、地域の課題にどう対応していくのかということについて、今後、広域地方計画協議会において県境を越えて議論して頂き、重点的、選択的な取り組みによる広域ブロックの自立的発展のための地域戦略を描いて頂きたいと考えています。
- ・また、四国圏域においても広域地方計画の検討が進められており、中国圏と四国圏とが共通の課題を有していることなどから、今後合同で協議していくことが求められています。是非、十分に議論を深め、その成果を計画に生かして頂けることを期待しております。
- ・最後に、ご列席の皆様方の益々のご健勝と、中国圏の益々のご発展を祈念致しまして、挨拶

拶とさせていただきます。平成19年11月13日、国土交通大臣、冬柴鉄三。以上です。

## 2. 報告事項

### (1) 中国圏広域地方計画策定の流れ

- ・・・資料1説明（甲村中国地方整備局長）

### (2) 中国圏広域地方計画のイメージ

- ・・・資料2説明（甲村中国地方整備局長）

## 3. 意見交換

### 中国圏の将来像について

<意見交換>

（石井岡山県知事）

- ・失礼致します。お許しを頂きまして、最初に私どもの意見を述べさせていただきたいと思っております。ありがとうございます。まず、今回の計画づくりについて、当初より地方の意見を十分採り入れて計画づくりを進めていらっしゃることにつきまして、大変ありがたいこととございまして、心より敬意を表わさせていただきます。
- ・その中で、総論的に申し上げたいことは、今、ご案内の通り、地方分権ということが良く言われておりますし、政府全体と致しましても地方分権、改革を進めていこうということで議論が進んでいるわけとございます。是非とも地域の、自分たちの地域のことは自分たちが決める、それぞれの地域が責任をもって進めていくという地方分権の考え方、もっと言えば、それぞれの独自の資源、個性をいかしながら、独自性のある地域の政策を進めていくという考え方、すなわち自立型の地域主権という考え方を計画の中に示していただくことが必要ではないか。まずこのことを申し上げたいと思っております。
- ・そして、その上で、現下の今一番大きな課題は、首都圏を中心と致します大都市と地域との格差の是正という大きな問題があるわけとございます。我々中国圏におきましても、様々な課題があるわけとございますけど、是非とも、首都圏を中心とした、首都圏の一極集中の是正という大きな命題につきましても、西日本の活性化を図っていく、ひいては我が国全体の発展に繋がっていくという観点から、首都圏の一極集中是正の問題を念頭におかれまして計画づくりを進めていただきたいと思いますと思っております。
- ・特に、産業政策につきましても具体的な将来像をお示し頂いておりますけども、例えばそういう観点から申し上げれば、ご案内の通り企業の本社機能が東京に集中しているといった観点で、税収におきましても東京を中心として、地方との偏在是正という大きな命題があるわけとございます。地方が、中国圏が独自の産業政策、企業誘致政策を進めていくという観点からも、国におかれましては、地方への誘導が可能となるような、例えば税制上の特別な優遇処置、こういったことを企業誘致の支援策として打ち出していく、このようなわかりやすい具体的な政策をこの中に打ち出して頂ければと思っております。
- ・次に連携強化、連携と交流の推進ということについての意見を述べさせていただきます。今回も近隣圏域との連携強化、これを中国圏域内における連携強化に加えまして具体的に打ち出していらっしゃることは高く評価をさせていただきますと思っております。中国各県

も同じだと思えますけれども、本県について申し上げますと、隣接致しております近畿圏、そして四国圏、両圏域との交流というものが非常に大きなウェイトを占めておるといってございます。例えば、近畿圏で申し上げますと、本県の県外の観光客の半数以上は近畿圏からお迎えしているということもありますし、例えば本県の野菜の出荷先をみてみますと、近畿圏のシェアが38%に上っているなど、非常に近畿圏との交流というものは経済的に太いものがございます。もちろん四国圏におきましても、瀬戸内海を挟んでの共通する課題、瀬戸内海の問題、あるいは先ほど触れてありました中山間地域の活性化、あるいは広域観光、こういったような大きな課題があるわけでございます、是非とも隣圏域との更なる連携交流の強化ということにつきまして、大きな柱として具体的な計画の中身として、戦略性のある計画を作っていくと願っております。

- その中で、四国との連携ということの関連も致しますが、当中国圏域はなんと申しましても瀬戸内海という世界に誇る素晴らしい観光資源でもあり、あるいは様々な経済のこれからの発展・活性化のために大変重要な資源を共有しているということでございます。瀬戸内海はご案内の通り閉鎖性水域でありまして、様々な環境問題が発生しているわけでございます。4つの圏域に囲まれている瀬戸内海を国民的な財産として次世代に継承していくためにも、関係する圏域の関係機関が連携致しまして、瀬戸内海の実環境の保全、活用ということに取り組んでいく必要があるかと思っております。その際、四国との連携ということによって課題になるわけでございますけれども、瀬戸大橋、あるいはしまなみ海道という共通の資源があるわけでございます。人流、物流の交流の基盤としてより効果的な活用を図っていく必要があるかと、このように考えているわけでございます。この利用料金の大幅な引き下げ、こういったことを前向きに考えていただく。そして、このことによって有力な観光資源としての活用にも当然いかされる。両圏域の経済の活性化にも非常に大きなメリットがある。このように考えております。こういった点は今後予定されております四国との合同協議会等におきまして活発な議論が当然展開されることと思っております。
- これに関連して高速道路の料金引き下げの問題がございます。道路特定財源の大きな議論が展開されているわけでございます。是非とも広域的な交流連携を促進していく、あるいは都市間の渋滞緩和を図る、こういった観点から、今申し上げました本四連絡橋の通行料金をはじめと致しました、高速道路料金全体の大幅な引き下げというところに、道路特定財源の議論がございますけれども、是非このようにところを反映して頂ければとこのように考えております。
- 以上大きくわけまして、地方分権、隣圏域との連携強化、そして様々な本県特有の課題を念頭におきましての意見表明とさせていただきます。どうぞよろしくご配慮お願いします。ありがとうございました。

(平井鳥取県知事)

- 今、石井知事がおっしゃいました基本的な論点は私も大賛成です。地方分権を是非進める。その意味で自立的な地域な発展を、この中国地方をモデルとしてやって頂く。そういう気概で我々も臨まなければならないのではないかと思います。その中で、私が特に重要視しなければいけないのは、大きな時代のトレンドとして今新たな過疎時代が再来した、始まったと言うことを我々はこの中国地方について考えないといけないと思っております。

- ・小泉さんの構造改革がはじまったころから、大都市圏での工場立地の制限緩和などが行われまして、それから景気としても結局大企業のリストラが中心となった景気回復になっております。ですから東京、神奈川、愛知あるいは大阪といった関東、東海、近畿に対する人口の集中が再び始まりました。どこの県も社会減に悩んでおります。私ども鳥取県は自慢ではありませんが59万9830人と、60万人をとうとう割り込んでしまいました。あと200人増やさないと60万人に届かないということでございまして、是非ともこういうことを打破しないとにならないと思っておりますが、調べてみると各県共通の状況なんです。自然減が起こるのは当たり前ですけども社会減が起こっている。その原因をもう一度断ち切らないといけないと思っております。高度成長の時代にもこうした過疎の問題がありました。その時代に産業立地政策は是非地方へと言うことで様々な、新産・工特法ですとか、国を挙げての産業再配置がおこなわれたし、また公共投資についても地方の足腰を鍛えようという全国的な国土の整備が構想として設けられたわけです。もう一度、再びこうしたことをはじめないと、この国のゆがんだ姿はどうしようもない方向に進んでしまうのではないかと。そのために中国地方はそういう大きな役割、モデルケースとしての役割を果たしていかなければいけないのではないかと。いうふうに思います。今岡山知事がおっしゃいました、地方誘導のために税制上、例えば法人税を地方においては優遇する、税率を変えろといった仕組みなど、これは積極的な国策としての地方への産業再配置を求めるべきだと思います。
- ・いくつか戦略を立てていかなければならないんだろうと思っております。中国地方の先ほどの地図を見ていて大変面白いなと思っただけで、中国地方をひっくり返して見たものでございまして。これを前回この資料を見せられましてなるほどなと思っただけで、こうした地図をご覧になってよく分かると思うんですが、中国地方は東アジア、今経済圏域の世界の中心になりはじめている東アジアへのアクセスの部分にある。本州のちょうど頭の部分にあるということになります。我が国の経済と大陸とを結ぶために中国地方を活用してもらおう。これこそが私どもの目指すべき大局的な方向性ではないかと思うんです。北東アジアに対するゲートウェイ機能を果たすべきだと思います。先ほど瀬戸内海の話がありましたが、私は日本海側も大きな役割、本来果たさないといけないのに国策として遅れているというふうに断ぜざるを得ないと思っております。例えば、境港、浜田、鳥取という重要港湾がこの地域にあるわけがあります。ここから東アジアに向かった方が、よほど日数も節約されますし、荷揚げで神戸で待たされることもないわけがあります。ですから、こうした地方港湾のように従来位置づけられ、整備が遅れてきているところ、こうした日本海側の港湾をいかすことが、これから例えば必要になるのではないかと。それから空のことに付きましても米子空港という空の玄関があります。こうしたところをいかすことが必要ではないかと思っております。対岸を見れば韓国の江原道とか、あるいは慶尚北道、あるいは釜山、ウラジオストク、そうした地域があるわけがあります。ここらと結んでいって、お互いに経済的に北東アジア地域が栄えていく中心に中国地方、また日本海側の沿岸地域というものを考えて頂ければ、まったく別の国家の発展の方向性が見えてくるのではないかと思っております。
- ・これと合わせて、この文章の中でもいみじくも触れられていますが、山陰地方は非常に高速道路の整備が遅れている。これは大問題ではないかと思っております。対岸の韓国を見れば、しっかりと日本海側にはひかれています。さらに中国に行けば、これは日が昇る

ような勢いで高速道路の整備が着々と進んでいる。アメリカに迫ろうというようなハイウェイ網ができあがりつつある。ですから我々は対抗する意味でも日本海側に高速道路などのきちんとした背骨を与えて、そこから海へ向かって、空へ向かって伸びていき、東アジアに一番近い玄関口としての中国地方の機能を高めるべきではないかというように思う次第であります。

- それから、先ほど申しました過疎化と絡めて中山間地域の問題は、中国地方として深刻に考えなければならないと思います。新過疎法の立法を待ち望むことはもちろんであります。その際に従来とは違った過疎対策を考える必要がある。特にソフトの面での対策も重要だと思います。医療の面、医師が不足する、こうしたことなども従来とは違った焦点をあてなければいけないと思います。
- 今日は中国の通信の方の局長さんもおられますけども、実は最近中山間地域で問題になりますのは、携帯電話が入らないから嫁がこない、という話でございまして、これは全く冗談ではなく、そういう風に言われて振られる人がいる、こんな世の中を許していくわけにはいかないと思います。あるいは、今度地デジが入りますというんですが、これは本当に入るだろうかということ結構多くの地域が心配しています。それからブロードバンドが通じるかどうか。リモートの地域でございまして、遠い所なりにビジネスをしようと思えばブロードバンドの基盤が必要になる。これらのことは大変な技術革新が進んでおりまして、それほど大きなお金をかけなくても、十分ネットワークを作ることが可能だと思いますし、せめてお嫁さんが来るぐらいのことはできるだろうと思います。ですから、そういう意味でこうしたところに従来とは違った国の政策の光を当てて頂く必要があると思います。
- また、私ども中山間地を抱える中国地方で大切な資産は、先ほどお話がありましたが、雄大な自然があり、これは子や孫に対して引き継いでいかなければいけないわけです。環境対策のことも若干盛り込まれています。先ほど瀬戸内海の話もありましたが、日本海も海洋資源をどうやって守っていくかという話があります。これは外海のように思われているかも知れませんが、地図を見て頂ければこれは内海でございまして、まわりを全部取り囲まれた海でございまして、これもやはり環境の問題として対岸諸国と連携して考えないといけないわけでありまして、この日本海を渡って黄砂がやってくる。黄砂の被害もこれからだんだんと増えてくると思われます。現に韓国などは大変な問題になってきておりますし、日本でも微細粒子についての健康被害が予測され始めているという状態にあります。加えまして、最近では光化学スモッグなどの問題も起きてきています。大陸に近いがために環境被害が懸念されるという非常にパラドックスな状況が生まれていることを私たちは考えなければいけません。そういったことを是非これからの視点として考えて頂きたいと思います。
- 中山間地を多く抱えることによって農業対策が他地域とは違ったことが必要になることも十分明記されるべきだと思います。先般、品目横断的経営安定対策が導入されました。7月2日に締め切られました。私ども鳥取県は対象となる田んぼは10%に過ぎません。これは中国地方全てそういう状況であります。何故かと言えば、東北や北陸のように雄大な広大な農地が田んぼとしてないわけでありまして、米作よりも他のいろんな農業をやっているわけでありまして、中山間地ということもありますので、そういった意味でも別の光を与えてやる必要があるだろうと思います。

- ・こういったようなことを、中国地方としては、是非他地域とは違った特徴があること。これを明快に出して頂きまして、地方の立場に立った計画づくりをお願い申し上げたいと思います。関係者の方にはこれまでとりまとめて頂きましたことに感謝申し上げます、私の方の発言と致します。どうもありがとうございました。

(溝口島根県知事)

- ・先ほど甲村局長から現時点での広域地方計画のイメージ等についてお話がございました。私もだいたい整理されている方向でよろしいんじゃないかと思います。
- ・一つは地方の多様性を活かした交流連携でやっていくということ。その中で一体感のある中国圏を形成する、あるいは隣接ブロック、これは石井知事も言われましたが、そういう関係を考えていく。あるいは国際的に見ると東アジア、あるいは環日本海を中心とする国際交流、経済交流、その拠点として中国地方を考えるとということ。それから産業集積、地域資源を活かした産業を中国地方で発展させていくということ。豊かな自然や地域資源がいろいろあるということでございます。
- ・魅力ある地方都市が中国地方各地に存在している。これは大事なことじゃないかと思えます。どこも同じような大都市、特色のない大都市ではなくて、それぞれが違った魅力をもつ地方都市を核とした発展が行われている。そういうものを道路網、インターネットの通信網でつないでいく。そういう魅力のある都市が豊かな自然の中に存在している。私の感覚で言えば、戦後のこれまでの発展が大都市に集中しております。日本全体でみれば太平洋地域、あるいは首都圏といったところに集中しておりますけども、それを逆に分散していく時代に入っていると思えます。それが二番目の課題でございます。
- ・三番目といたしまして多彩な文化と魅力をいかすためにそれぞれが多彩な文化を持っていますし、自然があります。山間地域もありますし、海岸地域もあります。離島もあります。それぞれが魅力ある地域となるような工夫をしていく、それを行政が計画で支えていくということではないかと思えます。
- ・そこで、こういう中で2点だけ申し上げますと、一つは国際的な関係を見ますと、東アジアも韓国、中国。中国も今は上海など南の方がやや発達しておりますが、最近の動きを見ますとロシアの沿海部の資源開発がだんだん進んでおりまして、ロシアとの交易が増えようとしております。それからいずれは朝鮮半島も大きな変化があり、朝鮮半島がまた経済発展をしていくということになるでしょう。それから中国の東北部もそうでしょう。そうなりますと、やはり環日本海でどういう発展をするか、めざすか、そのために何をするかという視点がこれまで以上に重要になってくるんじゃないかという気がいたします。実際に島根県で言いますと、浜田港からロシアに対して、今、自動車の輸出が増えているわけです。中古自動車ですが、沿海部に中国と同じような新しい富裕層がでてきておりまして、そういう人たちが品質の高い生鮮食品でありますとか、あるいは建材でありますとか、あるいは消費物資が必要な時代になってきております。そういうものを供給する基地としては山陰側にかなりあるわけです。今、平井知事もおっしゃいましたが、浜田でありますとか、境でありますとか、あるいは鳥取など港湾があるわけですが、こういう港湾の役割もこういう観点から見直していく、充実していくことが考えられますし、それから日本海を通じる運輸ということになりますと、山陽と山陰が高速道路でうまく結びついていることが大事なことに今後益々なっ

いくんじゃないかと思います。もちろん瀬戸内海側はひきつづき活力ある地域として発展するでしょうから、山陰からの物資の輸送、人の交流のためにも必要なわけであります。そういう観点からみますと、今の山陰の海側は高速道路の建設が遅れているわけでございまして、新しい時代に即応した体制を早く築いていくことが大事じゃないかと思います。

- それから、最近、島根県のことでありますけども、石見銀山が世界遺産に登録されて、石見銀山をみながら、あるいは古い歴史的文化があります出雲地方、あるいは石見地方に行く観光客が増えているわけでございます。これは山陽側を経由して来る人が多いわけでございます。広島空港に着いてバスで来るとか、岡山空港に着いてバスで来るとか、あるいは高速道路を通じて自動車で来ている方も増えているわけでございます。そういう意味で広域的な観光をスムーズに実現する、そういうことをして、近隣の韓国や中国の人たちが訪ねてくださるといような体制を早く確立していくことが大事じゃないかと思います。これが第1点目でございます。
- 2点目は、石井知事も平井知事も強調されたわけでございますが、中山間地域の問題があります。これに対しましては、新しい対応が必要でございます。現行の過疎法が20年度末に切れますから、これに対応した準備を我々でやっているわけでございますが、この広域地方計画を作る過程でも中山間地域の問題をしっかりと位置付ける必要があると思います。対応の細かい点は省略致しますけども、中山間地域は、いわば森林の中に存在するわけでございます。あるいは狭小な谷間に存在するわけであります。私が県内を回っていますと、こんな中山間地域でもよく工場が進出しているなというところが随分あるんです。それは幹線道路が整備されているところであります。島根で言いますと雲南地域という広島県境に近い地域はかなりの大企業の工場が進出しています。あるいは山口県に近い方では六日市といったところでも進出をみるわけであります。つまり、日本の産業構造も随分変わってきておまして、大きな立地を要しない、小さい立地で高度な品物を作ることが可能になってきております。そうなりますと、道路の事情あるいは通信の事情が良ければ可能なわけであります。むしろ、中山間地域には心豊かな青年たちがたくさんいるわけでございますが、職が無いために都市に出ているということがあるわけでございまして、人材の供給と言うことから言えればかなりあるところでありまして、そういう人材を活用するという面からも中山間地域問題を考えていく必要があるんじゃないかと思うわけであります。
- いずれに致しましても、大事なことは、どこかに偏った発展ではなく、それぞれの地域の特性を活かした発展、これをめざしていくということではないかと思います。以上でございます。

(藤田広島県知事)

- 大変なご努力を頂きまして、このようにまとめていただいていることに感謝を申し上げる次第でございます。
- 各県の知事さんから相当な発言がございましたので、重複部分は割愛させて頂きますけども、広島県、10年前288万8千で人口がピークをうちまして、その後、現在までにほぼ1万5千人ぐらい減って現在287万3千人ぐらいでしょうか。ただその中身に問題がございまして、中山間地域や島嶼部からはどんどん人がいなくなっている。やってきているのは外国人で、主に沿岸部の工業地帯にお住まいになられているといった状況でございます。そうい

った方々を除けば中国地方の他県と同じような状況にあるのではないかと考えております。そういったなかで、中国地方全体を俯瞰すれば、やはり中国地域全体の時間距離の短縮ということがこの地域一体が共同で発展していくために必要不可欠なものであらうと考えています。そういった意味では、日本海沿いの自動車専用道の早期完成、あるいは本県であれば松江尾道線の早期完成が望まれるという風に考えております。

- それから産業立地政策でございますけども、小さな工場で非常に付加価値の高いものを作って簡単に輸送できる、こういったものももちろん重要でありますけども、やはりある程度従業員を抱えながら、大規模な事業展開をしていこうとしますと、どうしても大規模な宅盤が必要になってくるわけです。本県の場合であれば例えば 30ha 以上の宅盤を新しく作ろうとすると、広島県福山市神辺町から岡山県の井原の方に向かって、あの辺りしかそういった広い土地が残っていないという状況でございます。また、他県にそういった宅盤がとればそれで良いんですが、今度はそういった企業が来たときにどうやって人を集めるか。どこに住んで頂いて、どうやって通って頂くか、という問題があるかと思えます。広島浜田間も有料でありますから料金がかかりますけども、仮に無料で通れるとするならば、1 時間ちょっとで通勤が可能なわけあります。そういった意味では、そういう自動車専用道あるいは高速道路が持つ能力、あるいはポテンシャルは素晴らしいものがあって、そういうものを早く整備をすることが一体的な発展にとって必要なんだろうと考えています。
- ただ問題は、そういった時に、今やだんだん県境というものが邪魔になってきておまして、さっき申し上げましたような大きな宅盤を作って大規模な工場を誘致しようと思えば県境をまたぐしかない。例えば、大竹、岩国は一体的な工場地帯ですが、そこに県境があり、なおかつ小瀬川という川が通っているがゆえに、双方に立地している企業があるにも関わらず別々の対応を強いられているといった面もございまして。そういった意味では岩国と大竹なんかは一体的に考えるべきではないかと思えます。
- それから、これは本県だけの事情になるかもしれないんですけども、広島県の水。これが大きな川が全部、全部とは言いませんが他県に流れているという状況がございまして。広島市のすぐ北側の分水嶺、そこからは江の川が島根に流れる。あるいは庄原市を水源とする馬洗川がやはり島根に流れる。あるいは庄原の東城町のあたりを水源とする高梁川は岡山に流れる。小瀬川は県境を流れる。そういった意味で広島県の水資源、今後広島県を發展させようと思えば、そういった水資源のことも問題になっている。
- それに関連して、広島県の中山間地域ですけども、崩壊する危険性のある集落、例えば 10 世帯未満の集落を 600 以上本県は抱えている。そういったところが、今耕作している田畑が放棄地になった場合。例えば圃場整備などが済んでいてある程度まとまりがあれば営農法人で営農の継続が可能なわけですけども、それができないとするならば、どうやって田畑の土が川に流れるのを防ぐのか。たたら製鉄などの影響もあって、広島県内の川は天井川が非常に多ございまして、沿岸部に行きますとほとんどの川が河床がもう周辺より高いといった状況にございまして、これ以上中山間地域でそういった集落が崩壊し、耕作放棄地が出てきてしまった場合に、そこからの土砂の流出による河川の河床の上昇。さらにはダム堆砂容量の減少、更に下流に及ぼす影響というものが非常に大きくなっていくというふうに考えています。そういった意味で、島根県さんとも一緒に中山間地域のことも様々な



勉強をしているんですけども、ここがなかなか決め手になる方策がない、あるいは政策がないということに非常に悩んでいます。

- ・広島県としても次の過疎法に向かっていろんなお願いをしていきたいと思っているんですけど、やはり地域をまとめて引っ張るようなリーダー的な存在、そういった人を育てるソフト施策というものが必要なんだろうと思っています。これは今現在、10月1日から新しいプロジェクトチームを立ち上げて、広島県にどういうものがよいか、今鋭意、島根県さんのご協力も頂きながら検討しておりますので、また追ってご説明なりお願いをさせて頂ければと思います。私からの意見としましては以上です。ありがとうございました。

(二井山口県知事)

- ・まず、国土形成計画に対するスタンスですけども、先ほどから話がありましたが、広域地方計画。これについては、国と地方が対等な立場の中で、いろんなご意見、意見交換をしながら積み上げていくという形になっておりますから、我々としては歓迎すべき取り組みだと思っていますし、これからもいろいろな形で意見提言を言わせていただきたいと思いますところですよ。
- ・中国圏の進むべき方向については、先ほど甲村局長からかなり詳しくお話もありましたし、方向性としてはまったく異存がないわけですが、私からは特に2点ほど申し上げておきたいと思っています。
- ・中国圏は広島市と岡山市を除きますと、中小の都市が非常に分散しているという都市構造になっているというふうに思います。山口県は特にそういう構造になっているわけですけども、中国圏全体としても分散型の都市構造になっているというふうに思いますから、それぞれの都市のこれまでの歴史的な発展経緯等を踏まえても、いろいろな特色を持っているわけでありまして、したがって、都市間をしっかりと連携してお互いのポテンシャルを高めていく、そのことが大変重要であるというふうに、まず一点思っております。
- ・それから第二点目は輸出産業が非常に多いという状況にありますから、これらの輸出産業を、今特に東アジア圏域の中で、例えば韓国、中国、台湾と大変な競争をしているという状況にあります。その競争に中国圏の輸出産業が勝ち抜いていけないといけないということが大変重要であると思っておりますから、この輸出産業をいかにこれから育成していくのか、という視点が大変重要であると思っております。
- ・したがって、私は三つの視点、今から申し上げますが、陸海空の交通基盤の整備を是非これから進めていけないといけないと思っています。今、公共事業を巡る大変厳しい状況にあります、やはりハード面の基盤をしっかりとしていかなければ、今申し上げましたような中国圏の発展はなかなかないと思いますので、いろんな工夫をしながら、知恵を出し合いながら、この陸海空の社会基盤の整備をいかに進めていくかということを考えていかなければいけないと思います。特に都市間、圏域間の連携という面では、先ほどから話がありますように、山陰側に大きな一本、骨格がいるという意味で山陰道の整備をあらゆる整備手法を用いて、早くこれを完成させていただきたいというふうに願っております。同時に山口県内の地域高規格道路の整備も進めて頂いておりますが、県域を超えた地域高規格道路の整備も合わせてやるのが、お互いの中国圏の中でのポテンシャルの向上につながると思いますから、この面での整備も合わせてやっていけないといけないのではないかと思います。

- ・それから他圏域との交流という面でも、これはしっかりやっけていかないといけないと思います。特に山口県の場合は九州との関わりが非常に強いということもあり、よく九州の会議で私が申し上げておりますのは、関門海峡道路、いわゆる第二関門橋を早く整備すべきではないかということをお願いしています。ご存じだと思いますが、今の関門橋と関門国道トンネルはほぼ同じ場所に上下してあるということがございますから、これから大地震等でも起きた場合にあの二つの道路がやられてしまうと、九州と中国圏との間の連携が全く取れなくなってしまいます。もちろん海を使ってということはあると思いますが、陸上の面では非常に大きなパニックが起きてしまうのではないかと思いますから、私は関門海峡道路を、是非、今調査して頂いておりますが、早く整備していくことが大変大事ではないかと思っています。
- ・それから、他の圏域との交流という面では、今藤田知事が言われましたが、岩国と大竹と言いますか、山口県の東部と広島県の西部は経済圏的に見れば一体的であるというふうに思います。藤田知事から見ると若干反対という面もあるかも知れませんが、今、ちょうど米軍再編問題との関係で、岩国空港、岩国基地の民間空港を再開してもらいたいという運動を私どもは起こしています。広島県の西部と山口県の東部は空港の面から見ると空白地域といっても良いと思いますから、そういう面でも空の整備ということも中国地方の中では必要ではないかと思っていますところでは。
- ・それから第3点は、東アジアとの交流の促進ということでございます。先ほど輸出産業の活性化ということが大変重要だろうという話をしましたが、例えば徳山下松港という港湾がありますが、そこは石油コンビナートと一般的には言われてますが、オーストラリアから岩塩を輸入して、そしていろんな製品を作っている。まさに石油コンビナートではなく塩素のコンビナート、あるいは水素のコンビナートという形になってきているわけです。したがって、港がしっかり整備されないと、輸出産業として成り立たない。これは徳山下松港だけでなく、他の中国圏の港もそうだと思いますから、港湾の整備ということをこれからしっかり考えていかなければいけないというふうに私は思っています。
- ・最後に、これは各県知事さんからそれぞれ出ましたように、中国圏で共通の問題は中山間地域の振興をいかに図るかということですから、過疎法にかわる新しい法律も必要ですし、各省庁間の連携したハードソフト両面での対策がますます重要になってくると思いますので、その辺は共通の課題として、しっかりと計画の中に位置付けていただきたいと願っているところです。以上です。

(三宅広島市副市長)

- ・発言の機会を頂戴致しまして、大変ありがとうございます。都市の立場からということで2点ほど発言したいと思います。
- ・まず、圏域全体の発展を考える上で、都市と中山間地域の役割分担と連携は、相互補完ということで大変重要な視点であると考えます。しかし、いろんな圏域は、都市がその力で引っ張っていくということだろうと考えておりますので、今後とも人口や都市機能の集積、あるいは産業活動などによって圏域の様々な活動を支え、圏域の発展をけん引するという役割は変わらないだろうと考えております。中国圏の自立的発展のためには、教育、医療、文化、スポーツ、アミューズメントなどの様々な高次都市機能を有する広島をはじめとする中枢都市圏がそれら機能のさらなる強化に取り組む必要があると考えております。けして十分では

ないという意味もあります。

- それから、中国圏の発展に資する都市基盤整備を効果的に推進するとともに、中国圏への民間の投資を促進するという観点から、各々の都市圏の位置づけや役割を明確にして、中国圏の将来、例えば産業等の地域構造をはっきりと示す。こういうことにより、いろんな民間資本が出てくるということを誘導することが可能になるのではないかと思います。広島市には既に多くの高次都市機能の蓄積がございまして、中国圏において最も高い中枢性を有しております。こうした中、広島市では中枢性の更なる向上を図るため、現在、国、県、経済界をはじめ、幅広く皆さまのご支援を頂きまして新球場の建設に取り組んでおりますし、広島高速道路の整備、それから広島駅周辺の市街地再開発事業の推進など各種施策に積極的に取り組んでいます。今後とも広島市は中国圏の発展に貢献していきたいと考えております。中枢都市圏の機能強化が図られますよう、皆さまとともに計画づくりに取り組んで参りますので、どうかよろしくごお願い申し上げます。
- もう一点は、資源エネルギー問題の対応について、少し積極的な記述してはどうかというご提案です。昨今、石油価格の高騰が起りまして大変な問題となっておりますが、長期的には、一説には60年経つと一滴も出なくなるという説もございまして、石油の枯渇が予測されております。資源エネルギー問題への対応につきましては地球温暖化対策の視点とともに、今後の中国圏の産業や市民生活への影響を考慮した取り組みが必要と考えます。中国圏の製造業の出荷額の全国シェアは約8%で、エネルギー消費量は全国比約21%とのことです。石油価格の高騰が進む中、また地球温暖化対策への強力な取り組みが必要である中で、特に製造業におきまして、本日の資料にありますように、産業の国際競争力を高めるためのエネルギー環境対策の推進は重要な課題であります。中国圏の産業、民生、及びマイカーを合わせたエネルギー消費量は全国比約11%となっております、人口比の約6%よりも多いということです。更に産業部門やマイカーのエネルギー消費量の伸び率は全国よりも高いことも示されております。今後石油価格の高騰や地球温暖化がもたらす産業活動や市民生活への影響に対処するため、中国圏において都市と住民、事業者が協働する省資源・省エネルギー型の地域づくりの方向を示してはいかがだろうか、このように考えます。簡単ですが以上でございます。

(福田会長)

- 中国地方整備局、運輸局さんを事務局として、私どもの意見を採り入れていただきまして、また多大なるご尽力を賜り、まず御礼申し上げます。
- いろんな大きな課題が挙がっておりますが、この計画が概ね10、15年のスパンで作られようとしておりますので、いかなるマグニチュードの変化が訪れようと、対応できるような計画にしていけることが必要だと思います。
- それから、いろんな方がおっしゃいましたが、今地域の存亡が問われておるわけでございます。今こそ一極集中システムと断固決別していかなければならないだろうと思います。一極集中システムが地方を含め国全体の国力を上げていたのは事実でございますが、とっくにその時代は過ぎ去り、今やその弊害が日本の活力を押し下げようとしている。この辺りは周知のところだと思います。
- 中国圏として見た場合、陰陽格差が益々拡大しております。また、陰陽共通の課題としま

しては3／4の中山間地域をどうしていくかだと思います。

- ・中国5県は一体感がない、渡り廊下だ、求心力がないと言われて久しいわけですが、これは歴史的に大いなる錯覚だろうと思います。奇妙な理屈ですが、私は日本列島カステラ論ということを書いていました。日本列島を1本のカステラに見立てて、これに包丁を入れて、6ブロックでも10ブロックでも良いんですけど切ります。切ったところの一塊りがこれからの地域の活性化の単位だろうと思いますが、切られたところの際はどうかということ、これは隣保の世界でございまして歴史的にも文化的にもつながっている。これからはますます仲良く、いろんな交流を深めていかないといけない隣保の世界です。切られたカステラの中は何かということ、これは町内会の世界。この町内会でものを決めていかなければならないわけですから、その使い分けを間違えないようにしないといけないということです。
- ・それから、先ほど、中国地方をモデルケースにすればいいじゃないかと平井知事が仰いましたが、これはまさしくその通りだと思います。また、平井知事、溝口知事ともに、課題として挙げられているものは実に深刻かつ必須であると思いますが、共通しているのは環日本海の時代に期待感を感じていらっしゃることで、これは非常に心強い。かつて平成5年～6年ぐらいに環日本海時代が来るぞということで大騒ぎしたんですが、残ったのは富山県が作成した大変面白い地図一枚ということで、今、あれから10何年経って本当に胎動が始まったということでございます。まさに環日本海の時代の夜明け前、水平線から陽光が何となく見えてきたかなということでございます。そういうときに備えて、山陰も山陽サイドも一体感をもって、中国5県が官民一体で強い意志を持って、運命共同体ということを決心して目指していかないといけないと思います。
- ・今日は山口県の萩から出てきましたけども、山口県さんは山陰と山陽を抱えていて良いなという気がしました。広島県や岡山県は、山陰側に島根県、鳥取県がありますが、南北にわたるプロジェクト、県境をまたぐプロジェクトを強い意志で実施していくことで陰陽が繋がっていくと思います。既に鳥取県さんと島根県さんは県境でいろんなプロジェクトを立ち上げていらっしゃると思いますが、そういうことも大事なことだと思っています。
- ・とりとめがなくなりましたが、選択と集中とすることがこれから重要になってくると思います。選択と集中というのは切り捨てというイメージを同時に伴いますが、決してそうではないよと、各地域の個性を十分認めた個性化を目指した選択と集中という表現で、そういう言葉を使って頂くようお願いします。

(竹歳国土交通審議官)

- ・限られた時間で大変恐縮でございましたけども、大変貴重なご意見、具体的なお提言をいただきまして、まことにありがとうございます。大臣にもきちっとお伝えをして今後の計画づくりをともに進めて参りたいと思いますので、引き続きよろしく申し上げます。どうもありがとうございました。

(司会)

- ・以上を持ちまして、中国圏広域地方計画に関する意見交換会を終了させていただきます。ありがとうございました。

－以上－